

# 第1B(小)分科会 —教育課程に関する課題—

提案主題 確かな学力向上のための取組  
～小中一貫教育の推進を中心にして～

司会者	大分市立大在小学校	佐藤重康
提言者	大分市立大在小学校	池邊薫
助言者	臼杵市立臼杵南小学校校長	相原誠一
記録者	大分市立坂ノ市小学校	江藤浩二

## 1 協議の柱

- ・学力向上の取組を推進するリーダーの意欲を向上させるための働きかけはどのようにすればよいか。

## 2 協議の実際

### (1) 主な質疑

【質問】主幹教諭や教務主任等は小中一貫教育にどのように関わっているか。

〔回答〕教務主任は、事務局会で働いている。

【質問】小中一貫教育と学校研究の関係はどうか。

〔回答〕小中一貫教育とは別に学校研究で体育の研究を行っている。

### (2) グループ協議の報告

- ・役割を与え、責任感を持って取り組ませることが大切である。教頭は頑張りやよさを認めて褒めたり、一緒にやったりし、意欲を高めることが必要であると考え。また、運営委員会でアイデアを募り、参画意識を持たせるのも一つの方法である。
- ・学校規模により、教務が担任をしているので難しい。主幹教諭や教務主任が9年間を見通してリーダー会を行ったり、小小連携、小中連携を進めたりすることでリーダーの意欲を高めている。
- ・リーダーの意欲を高めるには、負担に勝る意義を明らかにすることが必要である。また、教頭は、精選し提案する、職場体制を整える、職員の間関係づくりを行う等、意欲喚起に努めることが求められる。

## 3 指導助言

- ・大在小学校では、小中共通の課題が焦点化され学力向上の道筋ができた、安心感や自己肯定感が高まり学習意欲の向上につながった、学習の手引き等の成果物ができたというだけでも素晴らしい。
- ・小中一貫教育を進めるには、①市町村教委の強力な推進 ②校内推進体制づくり ③教職員のベクトルを合わせることが必要であるが、大在地区は、教職員が150名を超えているので目標を共有することが難しいと思われる。
- ・地域住民や保護者の関与を深めて支援を受けること、情報交換・交流を活発にするコーディネーターの役割を設けること、実践・検証可能な指標を明らかにすることをを行い、教務主任等にリーダー会議で責任を持たせ、参画意識を高めることが必要である。